

国際日本学部 2023 年度夏期 海外ボランティア・プログラム

参加報告書（インドネシア・ブディルフル大学）

① 本プログラム参加のきっかけ・目的について（200 字以上）

せっかく国際日本学部に入學したので国日のプログラムで海外に関わることをしたい、一ヶ月半という長い夏休みの間に何かやりたいと思っていた際に様々なプログラムを見ていて、このプログラムを見つけました。私はボランティアサークルに入っていて、友人が春休みを使って海外ボランティアに行ってきた話をきく機会もあったので海外ボランティアにも興味があり、インドネシア・ブディルフル大学への海外プログラムへの参加を決めました。

② プログラム内容について（各項目 200 字以上）

1. ボランティア活動・ワークショップについて

現地の大学生たちとインドネシアの伝統的な料理や家庭料理を調理し、お弁当を作って配るボランティアや現地の高校生向け大学内で日本文化ワークショップを開き、日本語や習字、伝統工芸を教えるボランティア、高校や中学校に行き日本文化を教えながら交流をするボランティアを行いました。インドネシアに住む方々と交流する機会をたくさん得ることができ、日本文化を教えながらも、現地の文化を教わったり感じ取ったり、日本には体験できないような貴重な体験をすることができました。

2. 授業（インドネシアの歴史や文化、インドネシア語）について

ボランティアが終わった後に大学内でインドネシア語やインドネシアダンスのレッスンがあったり、インドネシア文化を学ぶことができる博物館にいたり、伝統工芸を作る体験をしたりさせていただきました。学校内で教わったインドネシア語やインドネシアダンスや歌は最後のフェアウェルパーティーでの披露があり、最後にはインドネシアの伝統衣装をきて現地の大学生と写真を撮ったりと、とても楽しい思い出になりました。インドネシアの文化を知ることができてとてもいい経験になりました。

3. フィールドトリップ（バンドンツアー）について

ジャカルタから車で 2 時間ほどのバンドンへの小旅行はとても思い出に残っています。植民地時代に建てられた洋風な建物が立ち並ぶバンドンの街並みはジャカルタとは異なった雰囲気でした。朝のウォーキングは中止になり残念でしたが、その時間は代わりに自由行動となり、自分たちでバンドンを自由に散策して、カフェに行ってみたり、ショッピングモールに行ってみたりと、それぞれやりたいことを気ままに楽しむことができました。

③ 本プログラムを終えての学習成果・感想（200 字以上）

日本には絶対にできないような様々な体験をたくさんすることができ、本当に参加してよかったと思っています。文化交流ボランティアを通して日本とは異なった文化を肌で体感し、様々な驚きを日々感じて自分の視野が広がられたように感じ、たくさんの学びを得ることができました。またインドネシアでは本

当に暖かく日本人を受け入れてくださり、国を超えた素晴らしい仲間を持つこともできました。本当に貴重で充実した一生物の体験をできる素晴らしい三週間であったと思います。

④ 現地での生活等について（今後参加する学生へのアドバイス含む）

1. 滞在先の治安・キャンパス・施設について

キャンパス周りも寮の周りも治安の悪さは全く感じませんでした。盗難に遭うなど危険な思いをすることもなく安心して三週間を過ごすことができました。

2. 食事について

朝昼は毎日提供していただきました。量が多めだったのでお昼にもつらたものを食べ切れずに夜ご飯に回すことも多く、食べ物には困りませんでした。脂っこいもの辛いものも多いため、日本からいくらか即席で食べれるものを持っていくことをお勧めします。

3. 交通手段について

基本は大学のバスでの送り迎えがついていました。個人的に行きたいところがある時には現地の大学生に頼んだり、簡単に安価で使えるタクシーアプリがあり、危険なこともなく使いやすかったです。

4. 通信環境について

大学にも寮にも Wi-Fi はついていましたが、寮の私の部屋は通信環境が悪く、部屋ではほとんど電波がつかがりませんでした。何不自由なく Wi-Fi を使っている部屋も多かったため部屋によってインターネット環境は異なっていたように感じました。

5. 買い物事情について

歩いて行ける距離にスーパー、コンビニ、ランドリーがあり、現地で大体のものが購入できました。

6. 医療事情について

7. その他、生活等に関して参考となることがあれば教えてください。

私はインドネシアで体調を崩したため、2 回ほど病院にかかりましたが、大学側が日本語の通じる病院を紹介して下さり、また保険のおかげで現地で支払いはなく診療を受けることができました。

以上